

京都支部

リレーショナルシップバンキングと中小企業の事業再生に関する調査研究

平成 19 年度マスターセンター調査事業のテーマ「リレーショナルシップバンキングと中小企業の事業再生に関する調査研究」に関して、下記の内容で調査を実施した。

1. 調査内容の検討
2. 調査項目の抽出と調査方法の検討
3. 調査票の作成
4. 対象地域金融機関の支店長・融資担当者への調査協力依頼
5. 調査票の回収、分析
6. 報告書の原稿起案

調査報告書の概要は、以下の通りである。

第 1 章 近年のリレーショナルシップバンキングと事業再生の状況

1. リレーショナルシップバンキングに関する動向
2. 責任共有制度

リレーショナルシップバンキング（地域密着型金融）の開始から現在に至るまでの流れを本調査事業のテーマである「中小企業の事業再生・経営改善」に関わる部分を中心に俯瞰した。4 年間のリレバンを通じて、一定の成果を上げてきた地域金融機関に対しても、さらなるリレバン推進が求められていることは、明らかである。

第 2 章 地域金融機関に対するアンケート調査

1. アンケート調査の概要
2. 設問に対する回答と分析

地域中小企業再生支援の最前線に立っている金融機関の担当者から再生支援の現状や専門家に対する期待や課題を調査し、中小企業再生の正しい現状認識と再生支援の新たなフィールドづくりへの第一歩とするためのアンケート調査を実施した。有効回答数 71 件の協力が得られ、分析を行った。

第 3 章 各種関係機関への訪問ヒアリング調査

1. 各種関係機関への訪問ヒアリング調査

各種関係機関へ訪問ヒアリング調査を実施し、中小企業の事業再生に関する現状や診断士に対する期待などを情報収集した。

第 4 章 リレバン・事業再生における中小企業診断士を取り巻く環境と期待される役割

1. 金融機関と融資先中小企業との関係の考察
2. 融資先中小企業と中小企業診断士との関係の考察
3. 金融機関と中小企業診断士との関係の考察
4. アンケート・ヒアリング調査のまとめ

今回の調査結果は、我々中小企業診断士にとって厳しい結果も含まれている。しかし、事業再生・経営改善の分野においても、中小企業経営の専門家として活躍できる領域が確実に存在していることを実感することができた。そのフィールドを個人の中小企業診断士として開拓していくこともひとつの道である。しかし、中小企業診断協会京都支部は、さまざまなスキルをもった人材が集まっている。その人材の知識と経験を活かし、地域の中小企業の事業再生・経営改善の支援を行い、中小企業と地域の活性化のお役に立つことは可能であると考えます。